

福間 英治	早称田大学理工学部金属工学科	安藤 道英	名古屋大学工学部金属科	小林 康真	〃 大学院, 工学部
報 準一	〃	山中 和光	関西大学工学部金属工学科	森 滋	〃 〃 工学研究科
辺哲 渡	〃	高田 良規	〃 院, 工学部, 金属加工学	石飛 精助	九州大学, 院, 工学研究科鉄鋼冶金
宮島 定美	〃			石倉 勝彦	〃 〃
三井 豊則	〃			桑野 清吾	〃 〃

~~~~~  
書 評  
~~~~~

— コンピュータサイエンス・シリーズ —

鉄鋼業のコンピュータ・コントロール

野 坂 康 雄 編著

60年代の鉄鋼技術の発展の主要な特徴が「巨大化・急速化」にあつたとすれば、70年代のそれはこれに「自動化」を加えることになると思われる。本書はこのような展望にたち、60年代におけるコンピュータ・コントロールの展開を、それを含む自動化全体との関連のもとに総括し、今後の課題を提起したものといえよう。

鉄鋼業は原料の処理から製・精錬・圧延を経て製品の精整にいたるまでの複雑・多様な生産工程から成り、造塊や鋼片のキズ取りのような自動化にはほど遠い作業や、高炉製鉄プロセスや条鋼の孔型圧延のように解析のきわめて不十分なプロセスを含んでいる。したがって自動化のための課題が工程によつて異なり、またコンピュータ・コントロールそのものの水準がさまざまであるのは当然といえよう。しかしこうした矛盾をはらみつつも、変動する諸条件下で生産性をいつそう向上させ、ますます多様化し、きびしくなる品質へのユーザからの要求をみたし、かつ増大する生産情報を迅速に処理するためには、コンピュータの大規模な導入による有効なコントロール・システムの創造が不可避的になりつつある。著者らはこうした事情を反映する事例を具体的に示し、今後の方向がメカニカル・プロセスおよびビジネスのオートメーションの有機的な結合と階層（ハイラーキ）システムの採用にあると述べている。

なお、本書の第1章には製鉄プロセスとそのコントロールの全貌に関する要をえた記述があり、専門家・非専門家を問わず参考とすべき点が少なくない。ただコンピュータ・コントロールそのものについては、一定の予備知識なしには理解できないと思われる部分がある。それは専門書としての本書の意図からみて当然であろうが、著者らのいうヒューマンウェアの拡大のためにも、解説書の著述またはしかるべき参考書の指摘を望みたい。（館 充）

(本号前付広告39ページ参照)

(A 5版, 325 ページ, 定価 1800 円, 産業図書)

東北大学 金研 助教授・助手公募

東北大学、金属材料研究所、金属表面化学研究室では、下記のように助教授・助手を公募いたします。

公募人員 助教授 1名, 助手 1名

専門分野 応力腐食割れ

公募締切 8月31日

提出書類(自薦, 他薦) 履歴書, 研究業績目録(別刷添付),

今後の研究計画

宛 先 980 仙台市片平二丁目 1-1 東北大学金属材料研究所 下平三郎

電話 (0222) 27-6200 内線 2918